

月刊 やちまなこ

2025. 6.15 発行

No.331

6月号

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



アオダイショウ (*Elaphe climacophora*) ナミヘビ科

1 mを遥かに超える個体が日光浴をしていたところを邪魔してしまい、こちらを威嚇してきたアオダイショウ。

ネズミを捕食することや脱皮しながら成長することが古くから日本では縁起の良い生き物として扱われてきた。今年の干支は乙巳（きのとみ）。巳（蛇）年の主役が冬眠から覚めて活動を始めたようだ。

性質は穏やかながらも驚かせると人間を咬むこともある。その姿形と動きを病的に嫌う人もいる。そしてヒグマも本能的に蛇を嫌う。



塘路フィールドノート【5/15～6/14】

【野鳥】

夏鳥や留鳥たちが主役となっています。今年は4月に寒気が南下したせいか葉の開きもやや遅く、野鳥の姿も観察しやすい。湖畔には夏鳥や留鳥に加え猛禽類の鳴き声も響き渡っています。



コシアカツバメ（センター軒下）

雨の日の午後には軒下で休憩。背面にオレンジ色。ツバメより尾羽が太く長い。ツバメ科



オジロワシ（塘路湖）

水辺で吠えるように鳴く。向いている方向には上空でトビとバトル中の幼鳥。タカ科



オオアカゲラ（塘路湖畔）

アカゲラに比べて長いくちばしと腹部の縞模様および赤色が特徴。キツツキ科



ノゴマ（釧路湿原）

夏鳥として北海道に渡来。海岸の草地から高山帯まで多く見られる。ヒタキ科



ムクドリ（センター前）

道東道北ではあまり多くない。大きな群れを作るのは夏から冬にかけて。ムクドリ科



センダイムシクイ（塘路原野）

スズメより軽量小型の夏鳥。「チョイチョイビー」の鳴き声が響き渡る。ムシクイ科

【植物】

初夏の花が次々に咲き始めました。湿地帯に咲く花や広葉樹林帯でしか咲かない花、日当たりの条件がマッチして咲く花など、諸条件によって分布や開花の違いが見てとれます。



コウライテンナンショウ (高麗天南星)
マムシグサとも呼ばれる。雌雄異株ながら性転換をすることで知られる。サトイモ科



ヒトリシズカ (一人静)
短い根茎から何本も茎を立てるのが特徴の多年草。明るい林内に多い。センリョウ科



ルイヨウボタン (類葉牡丹)
3出複葉で3輪生しているように見える。名前はボタンの葉に似ているから。メギ科



オオバナノエンレイソウ (大花延齢草)
種子をつくと地上部を枯らす春植物。花を咲かせるまでに10年以上。シュロソウ科



エゾオオサクラソウ (蝦夷大桜草)
オオサクラソウとの違いは茎や葉柄に長軟毛が多く、道東に多い変種。サクラソウ科



ニリンソウ (二輪草)
食用だがトリカブトの葉とそっくり。水溶性の毒があり生食は厳禁。キンボウゲ科

◎生き物 Pick Up ピックアップ

人気収まるどころか拡大し続けているエナガ（亜種シマエナガ）ですが、この時期は撮影者も少ないようです。冬に比べて観察が難しくなってくるのは樹木の葉が大きく開いて姿を捉えづらくなるためです。もう一つはシマエナガ自身が冬の姿と容姿に変化が起こるため。冬のもふもふと比べて夏は痩せて体形がほっそりしているように見えます。これは北海道の厳寒から身を守るための冬の羽毛が摩耗して短くなっていくため。保温が必要なくなり細身になってエサ取りに動き回れ、追い回すカメラマンも減って繁殖期の子育てに専念できるとも言えます。



冬



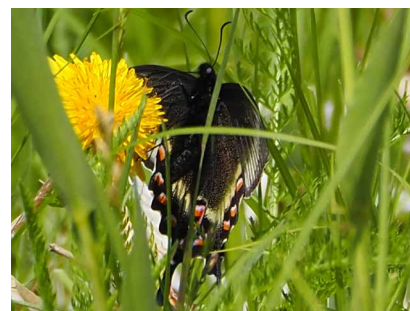
初夏

【昆虫・哺乳類】

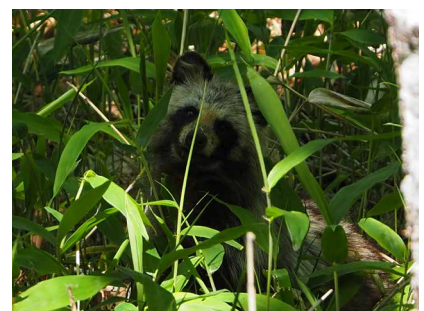
初夏は気温上昇とともに姿を見せる昆虫たちの動きが活発になってきています。エゾハルゼミのうるさい声も最盛期を迎えます。昆虫を食す哺乳類も姿を現し釧路湿原は生き物で賑わう季節となりました。



エゾハルゼミ (コッタロ湿原)
名前に反して本州四国九州にも生息。西に行くほど山地性が強くなる。セミ科



ミヤマカラスアゲハ (塘路湖畔)
出現時期は春と夏の2回。後翅に白い帯。水たまりでよく給水する。アゲハチョウ科



エゾタヌキ (茅沼)
ササやぶの中を地面に顔を付けて食物を探っているところ。なんでも食べる雑食。イヌ科

【報告】「塘路湖東端秘境の砦（チャシ）探検」を開催しました

5月17日、標茶町博物館の坪岡始学芸員を講師に迎え、塘路湖東端にあるチャシを目指して探検するイベントを開催しました。

まずは森の中を湖岸を目指して下って行きます。新緑の色彩がとても美しい季節ですが、ダニや恐ろしい大型哺乳類に注意しながら進みます。途中ヒトリシズカやネコノメソウ、エゾオオサクラソウなどの花々がお出迎え。森を抜けて開けた塘路湖東岸に達すると今度はアマツバメやオジロワシが低空飛行。しばし休憩の後、太古は海だったと実感する砂浜を歩いてチャシを目指します。途中屈斜路や阿寒の噴火による地層を観察しながら砂浜を歩き、最後に急こう配を登りきると人工的な環濠がめぐらされていると分かるチャシ跡に到達。講師から当時のチャシの用途や環濠や柵の位置、釧路アイヌ vs 厚岸アイヌの敵対関係の説明を受け、参加者にとって知的好奇心を刺激されたイベントでした。

参加者 13 名



7月の自然ふれあい行事

事前の申し込みが必要です

縄文土器作り講座

〔日 時〕 7月5日（土）10時～14時

〔定 員・参加料〕 15名 400円（材料費）

〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは

塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏休み！塘路湖畔の昆虫を探そう

〔日 時〕 7月26日（土）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは

塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏の樹木を見に行こう

〔日 時〕 7月6日（日）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター
（0154-65-2323）まで

ホタルの週末

〔日 時〕 7月18日（金）～20日（日）

18時30分～21時

〔定 員・参加料〕 20名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

◆日出・日入時間 5/15(3:57,18:38). 5/31(3:44,18:53). 6/14(3:40,19:03)

～指導員の独り言～

■昭和の時代に小説や映画の舞台にもなった塘路湖であるが、最近再び聖地巡礼で訪れる方々がちらほら見られるようになった。直訳すると「青りんご夫人」という名のバンドが閉校が決まった小学校を訪れたTV番組や、約40人強のアイドルグループがミュージックビデオの撮影地として氷上の塘路湖で踊ったことが大きい。聖地巡礼が継続していくのか2025年は塘路から目が離せない（ホントか？）。

(M)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL：015-487-3003 FAX：015-487-3004
E-mail：emc@kushiroshitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間：10：00～17：00

（11～3月：16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料